

令和6年度 第2回
沼津市水道事業及び下水道事業経営審議会
会議録

と き：令和6年9月10日（火）

ところ：水道部庁舎 3階会議室

司会	<p>定刻となりましたので、令和6年度第2回沼津市水道事業及び下水道事業経営審議会を開催します。</p>
司会	<p>それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。 本日は、委員の内、飯田委員が欠席しておりますが、委員総数の2分の1以上ご出席いただいておりますので、沼津市水道事業及び下水道事業経営審議会条例第6条第2項の開催要件を満たしていることをご報告します。 それではここからの進行は松井会長にお願いします。</p>
会長	<p>令和6年度第2回目の経営審議会ということで、本日は(新)沼津市下水道ビジョンの内容について審議をお願いします。 それでは座らせていただき、本日の議事の方を進めさせていただきます。 議事に入る前に、本日の議事録署名人の方の御指名をさせていただきます。 議事録署名人として岩崎委員と久保田委員にお願いをしたいと思います。</p> <p>それでは議事に入ります。 議事1、(新)沼津市下水道ビジョンの策定について、事務局から説明をお願いします。</p>
下水道整備課長	<p>《資料1～3:沼津市下水道ビジョン 2025-2034 の基本方針1『下水道整備の促進』について説明》</p>
会長	<p>ありがとうございました。 事務局から説明がありましたが、この議事について何かご質問等はございますでしょうか。</p>
委員	<p>取組項目①の汚水処理の推進における目標値 95.0%、下水道整備の促進における目標値 69.5%が、目安となる数値がないため、沼津市の下水道整備における目標値として見合っているのかわかりにくいと思います。 計画の中に静岡県における目標値などを加えることはできないでしょうか。</p>
下水道整備課長	<p>ビジョンの中に静岡県の目標値を掲載することは可能ですが、現時点では把握していません。 また、汚水処理人口普及率については、静岡県の目標は令和18年度に95%となっており、本市では県の目標年度よりも2年前倒しで達成する目標となっています。 人口普及率の目標値については、現行ビジョンにおいて年間1.0%の増を目標値として設定していましたが達成は難しいことから、新ビジョンでは物価高騰等の影響を考慮して建設改良費などを設定し、現実的な値として過去の伸び率を勘案し0.6%/年としています。</p>
会長	<p>それでは質問もありませんので、次の議事に入ります。 続きまして、基本方針2.安全・安心な暮らしの実現について説明をお願いします。</p>
下水道整備課長	<p>《基本方針2『安全・安心な暮らしの実現』について説明》</p>

会長	<p>ありがとうございました。 事務局から説明がありましたが、この議事について何かご質問等はございますでしょうか。</p>
会長	<p>それでは質問もありませんので、次の議事に入ります。 続きまして、基本方針3. 下水道施設の適切な管理について説明をお願いします。</p>
下水道整備課長	<p>《基本方針3『下水道施設の適切な管理』について説明》</p>
会長	<p>ありがとうございました。 事務局から説明がありましたが、この議事について何かご質問等はございますでしょうか。</p>
委員	<p>『②新たな官民連携方式の検討』について、ウォーターPPP との説明がありましたが、どのような内容を検討しているのでしょうか。</p>
下水道整備課長	<p>処理場の運営や管渠の管理について検討を予定しています。 国土交通省から、下水道事業の持続性の確保のため、ウォーターPPP 推進による民間活力の更なる導入が要請されています。本市においてもウォーターPPP をはじめとして様々な官民連携方式の中で活用できるものを検討していきます。</p>
会長	<p>その他、質問はございますでしょうか。</p>
委員	<p>このアクションプログラムを市民の方が見た場合、管路の耐震化、耐水化はわかりやすいが、長寿命化とはどのような取組なのか、不明水とは何かということが一般的には分かりにくいので、注釈をつけるとよいと思います。</p>
下水道整備課長	<p>一般的ではない言葉については公表の際に用語集に記載することとします。</p>
会長	<p>その他、質問はございますでしょうか。</p>
委員	<p>汚水処理施設の中で、中部浄化プラントが一番古い施設でよろしいでしょうか。また、その他の7つの処理施設の状況も併せて教えていただきたいと思います。</p>
下水道整備課長	<p>中部処理区の中部浄化プラントが一番古く、昭和 42 年に事業着手しています。 次に古いのは久連処理区西浦の久連浄化センターで 9.5 ヘクタールの小規模施設となっています。 次に内浦処理区の重須浄化センターで昭和 56 年に事業着手しており 58.29 ヘクタールの処理面積となっています。 次に県の施設である西部浄化センターで、この施設は沼津市、三島市、清水町、裾野市、長泉町の一部の排水処理をしています。 次に狩野川左岸処理区の南部浄化センターで 863 ヘクタールとなっており、平成 17 年から事業着手しています。 一番新しいのは、戸田浄化センターで合併前の平成 15 年に事業着手しています。 その他には、し尿処理施設の江梨浄化センターで 5.1 ヘクタール、漁業集落排水</p>

	施設の井田浄化センターで 4.1 ヘクタールとなっています。
会長	その他、質問はございますでしょうか。
委員	処理施設の耐震化について、近年、南海トラフ地震の発生が懸念されていることから、アクションプログラムに西浦、久連地区の浄化施設の地震対策を盛り込むことで処理地域の住民の方も安心すると思いますが、どのように考えていますか。
下水道整備課長	現在は中部浄化プラントを進めています。中部浄化プラントの耐震化が完了次第、他の処理場等の耐震化の検討をアクションプログラム⑦処理場等の耐震化計画の策定として計画しています。
会長	それでは質問もありませんので、次の議事に入ります。 続きまして、基本方針 4. 持続可能な経営の実現について説明をお願いします。
下水道整備課長	《基本方針4『持続可能な経営の実現』、新ビジョンの名称について説明》
会長	ありがとうございました。 事務局から説明がありましたが、この議事について何かご質問等はございますでしょうか。
委員	持続可能な経営の観点から、収入確保、経費削減といった経費に関する項目と広報、窓口対応とありますが、人材の確保について窓口対応の充実の項目に入れるのではなく、将来の人材確保・育成として項目を挙げた方がいいのではと考えます。
水道総務課長	⑩人材の育成は、職員の知識、技能向上を挙げていますが、技術者職員、工事業者の確保も含めたアクションプログラムを次回検討します。
会長	その他、質問はございますでしょうか。
委員	人材のところ、研修勉強会の参加人数前・後期 100 人というのは、研修に出た人が窓口対応で確保している人なのかを教えてくださいたいと思います。
下水道整備課長	職員の人数ではなく延べ人数で計上しています。現在の研修会参加人数は 80 人となっていますが、今後、前・後期 100 人以上を技術的な研修やウォーター PPP の研修、勉強会等に参加させ、知識、技能の確保を図っていきたいと思います。
水道部長	技術職の不足は、水道部だけでなく市全体の課題でもあります。 職員の採用にあたっては、市全体の技術職の確保を人事当局で進めています。その中で、水道、下水道経験のない職員が水道部へ配属されることがあることから、窓口対応の充実として人材育成をアクションプログラムに加えています。 様々な知識を習得する必要があるため、水道・下水道の事務職員、技術職員ともに研修に参加し知識を培っていくことが重要であることから、1 人が年間で複数回研修を受ける場合もあり、成果指標として延べ人数を採用しました。 人材の確保育成についての項目出しは、改めて検討します。
会長	新ビジョンの名称として、「沼津市下水道ビジョン 2025-2034」についてはいかがでしょうか。

委員	<p>令和6年度まで旧下水道ビジョンがあり、その後の令和7年度から 10 年間の新下水道ビジョンとなるため、「沼津市新下水道ビジョン 2025-2034」ではいかがでしょうか。</p>
会長	<p>その他、質問はございますでしょうか。 ここまで、下水道の普及から社会情勢に応じた経営を含めて 4 つの項目でビジョンの内容を見てきましたが、総括的な質問等がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>4.持続可能な経営の実現 ㊦下水道接続の促進で、下水道の接続率と水洗化率は同じでしょうか。水洗化率は、合併浄化槽も含めるという説明であったと思います。</p>
水道サービス課長	<p>水洗化率は、浄化槽を除いた通常の下水道供用開始区域における下水道に接続している人口の割合で示しています。</p>
委員	<p>㊧水洗化率 87.8%、㊨収納率 97.7%と 10 年間の目標値に対してほとんど変わらないが、この数値が限界ということでしょうか。</p>
水道サービス課長	<p>水洗化率の目標値設定としては、現況の 87.8%からプラス 0.1 ポイント/年を設定しています。 水洗化率は、人口の増減によっても数値が変わる指標です。接続数は近年、毎年 500 件前後で推移しています。年度によっては、供用開始区域内の人口増加が、下水道接続世帯の人口増加を上回る場合があります、その年は水洗化率が下がっています。 また、供用開始区域内の人口減少が接続世帯人口より下回る場合にも水洗化率は下がることとなります。 下水道の接続は、水洗化指導もありますが供用開始後、早期に接続する世帯が多い傾向にあるものの、下水道事業が進捗してきたことで、新規の下水道供用開始面積が狭くなっていることや供用開始区域の世帯数が減少してきていることから、水洗化率の目標値をプラス 0.1 ポイント/年で設定しています。 収納率も現況の 97.7%になっています。今年7月に下水道使用料の改定を実施しましたが、これまでの傾向で改定後に収納率が下がる傾向があることや物価高騰などにより市民生活への影響があることから現況値を超える目標値として 97.7%以上と設定しました。 今後、滞納処分等の導入を見据えた臨戸訪問等をこれまで以上に実施することで、収納率の向上に努めていきたいと考えています。</p>
会長	<p>その他、質問はございますでしょうか。 ないようですので、以上で、本日の審議は終了したいと思います。</p>
司会	<p>次第3のその他になりますが、今後の経営審議会の開催予定についてお伝えします。 本日の審議において委員の皆様から頂いた意見をもとに、第3回において、具体的な取り組み内容等を本文にまとめたビジョンを示し、改めて意見を伺う予定です。 その後、これまでに伺った意見を反映させたビジョンの完成版を第4回経営審議会でご提示させていただきたいと考えています。 また、経営戦略についても、本日審議いただきました基本方針に基づき同時進行で進めていきます。 開催時期については、第3回を10月9日、第4回を11月上旬ごろを予定しており</p>

	<p>ますが、改めてご連絡いたします。 以上、事務連絡を終わります。 本日はお忙しい中ありがとうございました。</p>
--	---